

Ⅱ くらしの向上

7 スポーツの振興

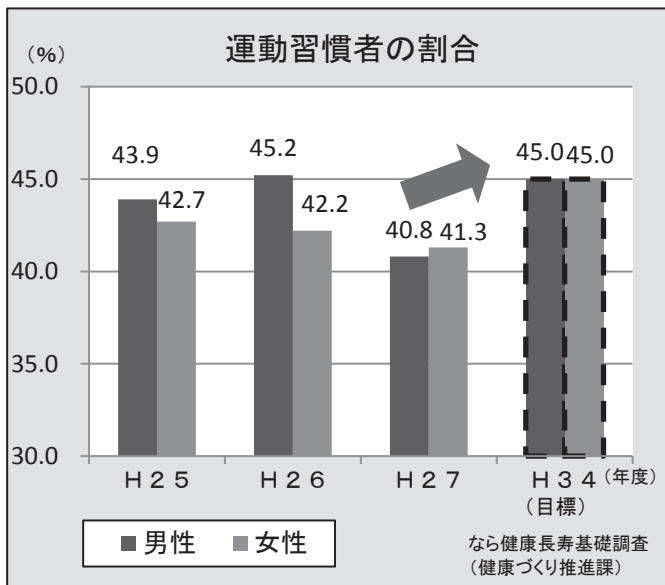
主担当部局(長)名
くらし創造部長 中 幸司

目指す姿

「生き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」を実現するため、生涯にわたり、「県民のだれもが、いつでも、どこでも、運動・スポーツに親しめる環境づくり」を目指します。

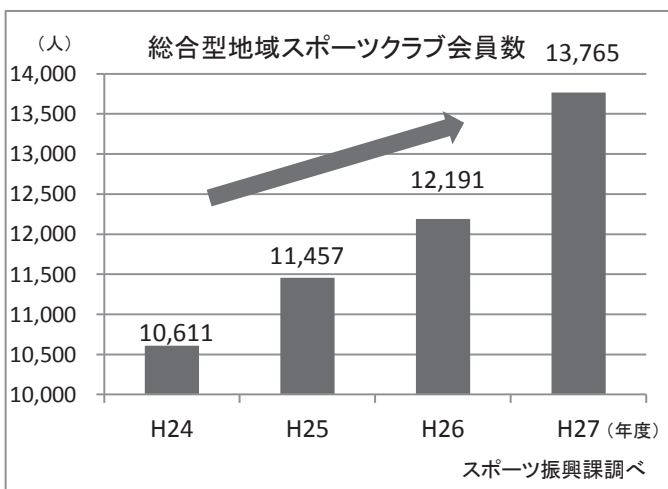
関係部局(長)名：地域振興部長 村田 崇、南部東部振興監 山本 尚、健康福祉部長 土井 敏多、県土マネジメント部長 加藤 恒太郎、まちづくり推進局長 金剛 一智、教育長 吉田 育弘

1. 政策目標達成に向けた進捗状況

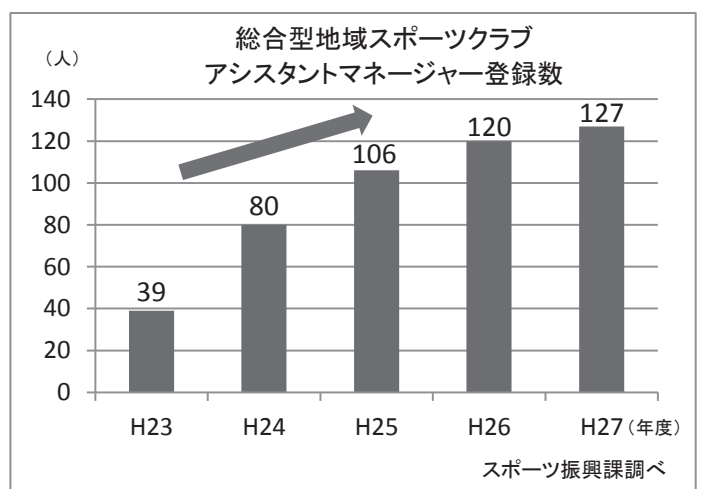


目標	1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施し、1年以上継続している人の割合を平成34年度までに45%に増やします。(H25年度：43.1%(女性42.7%、男性43.9%))
取組	運動・スポーツを楽しむ環境づくりや機会の提供に取り組みました。
成果	平成27年度の運動習慣者の割合は、60歳以上の男性を中心に低下したことから、平成26年度を下回りました。より一層、運動・スポーツへの関心を高めるため、新たな取組として、相撲やラグビー、女子ホッケー等、トップアスリートとの交流イベント等を実施しました。

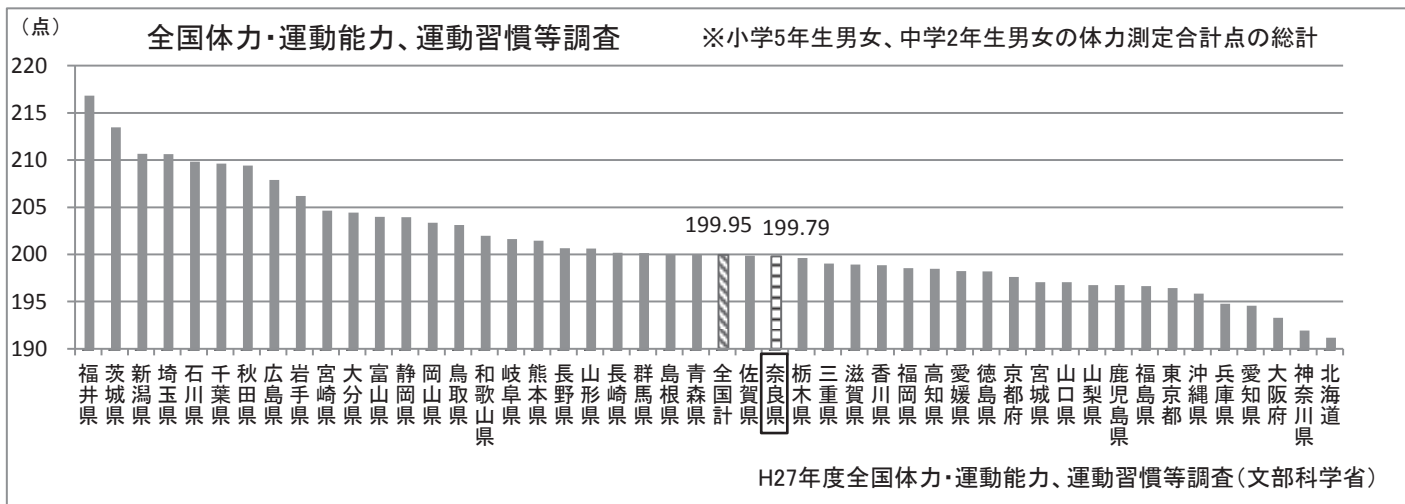
2. 現状分析



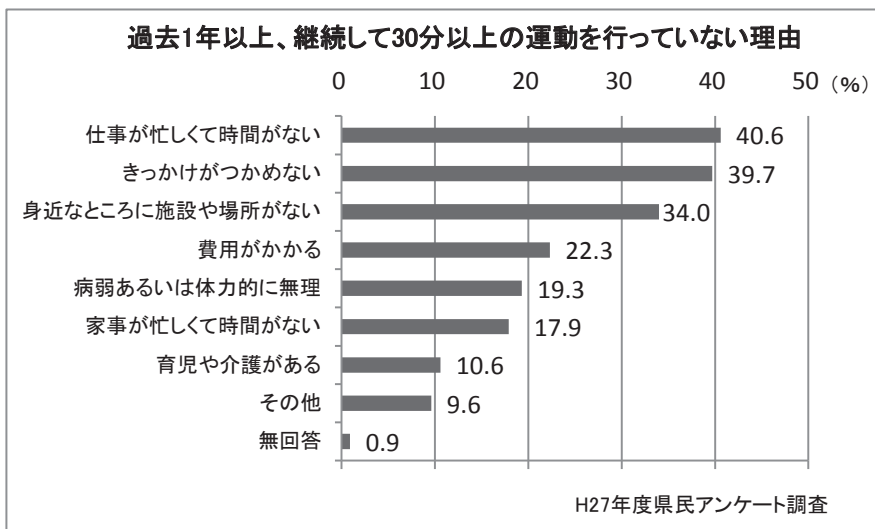
総合型地域スポーツクラブの会員数は、平成26年度の12,191人から、平成27年度には13,765人に増加しました。



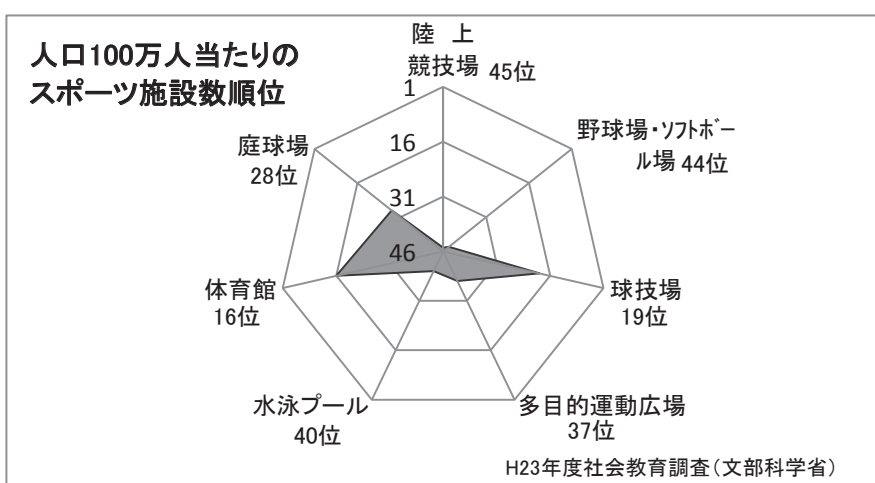
総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャーの登録数は、平成26年度の120人から、平成27年度の127人と、充実したクラブを運営するために必要な資格の取得者が増加しました。



奈良県の児童生徒の体力は、平成27年度の全国調査で全国26位(小学5年生:男子26位、女子35位、中学2年生:男子15位、女子27位)と全国平均をやや下回ったものの、平成26年度(198.66点)よりも体力測定合計点の総計が増加しており、児童生徒の体力は上昇傾向にあります。



過去1年以上、継続して30分以上の運動を行っていない人の理由としては、「仕事が忙しく時間がない」が一番多く、次に「きっかけがつかめない」「身近なところに施設や場所がない」となっています。スポーツへの関心・意識の低さ、スポーツに親しむことができる環境整備に起因すると思われる理由があげられています。



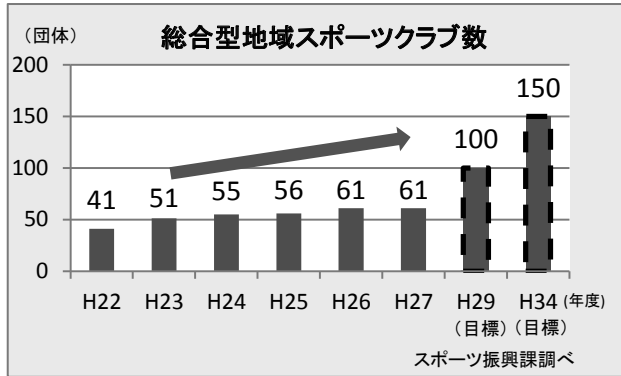
人口100万人当たりの主なスポーツ施設数について、体育館と球技場は10位台にありますが、それ以外は低位にあり、奈良県内におけるスポーツ施設の少なさが顕著となっています。

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 だれもがいつでもスポーツを楽しめる環境の整備を図ります。

主担当課(長)名 | スポーツ振興課長 村上 健

戦略目標	①総合型地域スポーツクラブ数を平成29年度までに100クラブ、平成34年度までに150クラブに増やし、だれもがいつでも気軽にスポーツを楽しむことのできる場を提供します。(H26年度:61クラブ)
------	---



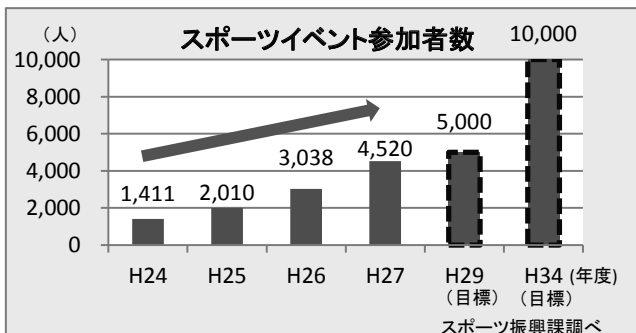
取組	総合型地域スポーツクラブへの支援内容を充実しました。(①)
成果	総合型地域スポーツクラブ数は、市町村等に対する人材育成や活動支援等により、平成22年度の41クラブから、平成27年度は61クラブへと順調に増加しています。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
ライフステージに応じた運動・スポーツの推進(①)				
トップアスリートと子どもとの交流イベント参加者数(人)	882	1,180	1,157	スポーツ振興課
障害者の運動・スポーツの推進(①)				
障害者スポーツフェスティバル参加者数(人)	1,068	1,045	1,064	障害福祉課
身近な公共施設等の活用(①)				
スイムピア奈良利用者数(人)	—	79,191	152,480	公園緑地課
橿原公苑におけるナイトラン参加者数(人)	26,845	29,915	29,732	スポーツ振興課

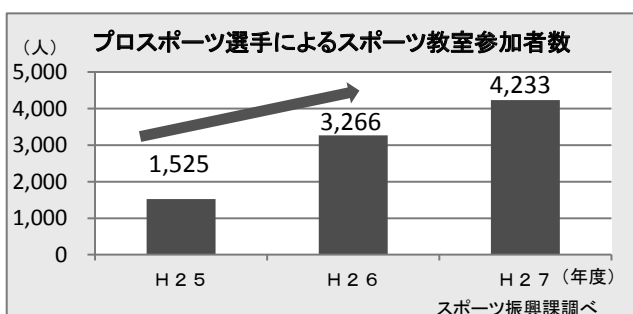
これまでの成果

- ・県が設置するクラブアドバイザーが市町村及び総合型地域スポーツクラブを訪問し、相談や啓発活動を行った結果、総合型地域スポーツクラブの活動が活性化し、会員数が12,191人(H26年度)から13,765人(H27年度)と、約1,600人増加しました。(①)
- ・アシスタントマネージャー養成講習会を毎年度実施し、資格取得の機会を設けたことで、アシスタントマネージャーは120人(H26年度)から127人(H27年度)へと増加しました。(①)

戦略目標	①スポーツイベント(総合型地域スポーツ交流大会)の参加者数を平成29年度までに5,000人、平成34年度までに10,000人に増やし、スポーツツーリズムを推進します。(H25年度:2,010人) ②県内外で活躍できるスポーツ選手を育成する体制の整備を進め、競技力の向上を図り、国民体育大会での総合成績を平成34年度までに20位台に上昇させます。(H26年度:35位)
------	--



取組	スポーツイベント(総合型地域スポーツクラブ交流大会)を充実させました。(①)
成果	県内の総合型地域スポーツクラブ間での交流が活発化してきたことにより、スポーツイベントの参加者数は平成24年度の1,411人から、平成27年度は4,520人へと年々増加しています。



取組	子どもたちとプロスポーツ選手との交流を実施しました。(②)
成果	スポーツの活性化と子どもたちへあこがれや感動を与えるため、普段はあまり接することのできないプロスポーツ選手による野球教室等を開催し、また、バンビシャス奈良等プロスポーツチームによるスポーツ教室が開催され、延べ4,233人の少年少女が参加しました。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
トップアスリートの育成(②)				
国民体育大会の総合成績(位)	37	35	33	スポーツ振興課
スポーツ指導者数(日体協公認)(人)	2,126	2,081	2,140	スポーツ振興課
プロスポーツによる地域の振興(②)				
プロスポーツの試合数(試合)	29	32	44	スポーツ振興課
参加型スポーツイベントの開催(①)				
奈良マラソンへの奈良県民のエントリー数(人)	7,096	8,227	8,030	スポーツ振興課
サイクルスポーツイベントへの参加者数(人)	1,559	3,795	2,303	スポーツ振興課

これまでの成果

・奈良マラソンでは、全都道府県からのエントリーがあっただけでなく、旅行会社と提携し、パック旅行を企画したことにより、奈良マラソンへの海外からのエントリー数が235人(H26年)から413人(H27年)に増加しました。

(①)

・県内トップレベルのジュニア選手等30人を、優れたトレーニング環境や優秀な指導者を有する国立スポーツ科学センター(JISS)に新たに派遣し、強化トレーニングを実施しました。(②)

・「トレーニングセンター構想検討委員会」の提言や有識者との意見交換、民間事業者からのヒアリング、大学との調査・検討を実施し、今後はスポーツ医学に基づく研究・開発を推し進め、幼児期からの年齢・発達段階に応じた効果的なトレーニング手法や理論を「奈良メソッド」として確立することを目指すとともに、その「奈良メソッド」を検証し、実践する場も必要となることから、「奈良県トレーニングセンター」を「奈良県スポーツアカデミー」と改め、その必要な機能や施設の整備を検討していくこととしました。(②)

4. 平成29年度に向けた課題の明確化

＜政策目標達成に向けた進捗状況＞
 1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施し、1年以上継続している人の割合は、運動・スポーツを楽しむ環境づくりや機会の提供に取りくんだもの、60歳以上の男性を中心に低下したことから、平成27年度は平成26年度を下回りました。

＜戦略目標達成に向けた進捗状況＞
 ・総合型地域スポーツクラブ数は、市町村等に対する人材育成や活動支援等により、平成22年度の41クラブから、平成27年度は61クラブへと順調に増加しています。
 ・県内の総合型地域スポーツクラブ間での交流が活発化してきたことにより、スポーツイベントへの参加者数は平成24年度の1,411人から、平成27年度は4,520人へと年々増加しています。
 ・スポーツの活性化とあこがれや感動を与えるため、プロスポーツ選手による野球教室等を開催し、また、バンビシャス奈良等プロスポーツチームによるスポーツ教室が開催され、延べ4,233人の少年少女が参加しました。

＜奈良県の持っている強み＞
 1 平成27年度の奈良マラソン出走者数は12,211人(フルマラソン)となっており、地域のイベントとして定着
 2 奈良マラソンは、名所を巡るコース設定がされている等参加ランナーから高い評価を得ている。また、ボランティアによるおもてなしと沿道の応援についても参加ランナーから高評価
 3 奈良県は、豊かな自然、起伏のある地勢、美しい風景や歴史的な景観、文化財をはじめとする観光資源等が豊富
 4 総合型地域スポーツクラブ数の増加

＜奈良県の抱えている弱み＞
 5 青壮年期(20～64歳)の運動習慣のある人の割合が低い
 6 プロスポーツ観戦に行く人の割合が低い
 7 スポーツ施設が少ない
 8 大きなスポーツイベントを招致できる施設が不足
 9 キッズ・ジュニア期からの選手強化体制・施設が整っていない
 10 プロスポーツチームが少ない
 11 奈良県を拠点にする実業団チームが少なく、能力を持った高校生・大学生が県外に流出

＜奈良県への追い風＞
 a ウォーキングやジョギング、サイクリング等健康づくりが全国的なブーム
 b ロンドン、ソチオリンピックで奈良県ゆかりの選手が活躍
 c 2019年ラグビーワールドカップの日本開催。試合会場の1つに近隣の東大阪市や神戸市が決定
 d 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催
 e 関西ワールドマスタースゲームズ2021の開催。県内市町村においても、競技の開催を希望
 f スポーツツーリズムへの関心の高まりとともに、国においても観光立国の実現に向けた取組を積極的に推進

＜奈良県への向かい風＞
 g 趣味・趣向の多様化
 h 移動手段等の利便性の向上による運動不足
 i 子どもの外遊びの機会が減少
 j 各都道府県・市町村も市民参加型のスポーツイベントに力を入れた結果、類似のイベントが増加
 k スポーツ施設の老朽化

＜強みで追い風を活かす課題＞
【重要課題】総合型地域スポーツクラブの活性化(4,a)
 ・参加型スポーツイベント実施(1,2,3,4,a,f)
【重要課題】ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致(2,b,c,d)
 ・スポーツツーリズムの推進(1,2,3,a,e,f)

＜強みで向かい風を克服する課題＞
 地域の地勢等を活かしたスポーツイベントの開催(3,g,i,j)

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞
 ・東京オリンピック・パラリンピックに向けたジュニア・トップアスリート育成(9,11,b,d)
 ・ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地招致に向けた施設整備(7,8,c,d)
【重要課題】奈良県スポーツアカデミー整備に向けた検討(7,9,11,b,c,d)
 ・就学前教育における運動習慣づくり(9,c,d)
 ・トップアスリートを活用したスポーツイベントの実施(6,8,10,b)
 ・青壮年期の運動・スポーツへの誘導(5,6,8,10,a,c,d,e)

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞
 ・既存スポーツ施設の長寿命化の検討(7,8,k)
 ・県内スポーツ施設の役割分担や最適なスポーツ環境についての整理(6,7,8,10,h,k)

5. 平成26年度の評価を踏まえ、平成28年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
参加型スポーツイベントの実施(戦略2)	奈良マラソン等のスポーツイベントの開催にあたり、イベント参加者へのアンケートをもとにニーズを把握し、内容の見直し・充実を図りました。また、多様化するニーズに対応した新たなスポーツイベントとして、アウトドアチャレンジレースを企画しました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
総合型地域スポーツクラブの活性化(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な活動をする総合型地域スポーツクラブを増やします。 ・健康づくりの取組と連携して、総合型地域スポーツクラブの活動内容の充実を図ります。
ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致(戦略2)	市町村と連携して各国関係者や関係機関へのプロモーションや交渉等ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地招致活動を展開すると共に、県内での機運醸成イベント等を実施します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
奈良県スポーツアカデミーの整備に向けた検討(戦略2)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期からの年齢・発達段階に応じた効果的なトレーニング手法や理論を「奈良メソッド」として確立することを目指し、「スポーツ医科学基本方針」を取りまとめます。 ・「奈良メソッド」を検証し、実践する場の運営方策について調査・検討を行い、「奈良県スポーツアカデミー基本方針」を策定します。